

県内修学旅行に期待

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県内の多くの小中学校が遠足や修学旅行などの教育旅行の行き先を県外から三重県内に変更している。

県教育委員会によると、例年であれば、県内のほとんどの学校が修学旅行の行き先を県外にしていたが、今年度は、9月8日時点で、県内の公立小学校の98%にあたる341校と、公立中学校の64%にあたる97校が県内での旅行を計画している。

こうした動きを後押ししたのは、県が交付する補助金である。県は、9月から来年2月の間に、県内を行き先とした遠足や社会見学、自然教室、修学旅行などの教育旅行を実施する学校に対し、児童・生徒1人当たり最大5000円の補助金を交付している。

交付を受けた学校の行き先の多くは伊勢志摩地域で、特に修学旅行の割合が高い。また、熊野市観光公社によると東紀州地域は、これまで県内外問わず修学旅行の受け入れがほとんどなかったが、今年度は9月時点で50校以上の修学旅行の予約が入っているという。

しかし、同時に受け入れ態勢の課題も浮き彫りになった。同公社や伊勢志摩観光コンベンション機構によると、修学旅行の問い合わせが多数あったものの、収容能力の問題や受け入れの経験不足などから、希望施設の変更をお願いしたり、東紀州地域では予約を断ったりするケースもあったという。

これを受け同機構は受け入れを決めた宿泊施設等を対象に講習会を開催した。修学旅行ならではの特徴や受け入れの際の心構えコロナ対策などを伝え、受け入れを円滑に行えるよう支援を行った。

県内の教育旅行は、訪れる側には身近な地域の魅力や価値を知るきっかけを、受け入れる側には修学旅行という新たな需要に対応する機会を与えてくれた。今後、三重県が教育旅行の行き先として、選ばれる地であり続けることに期待したい。

(コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 岡澤 初樹)